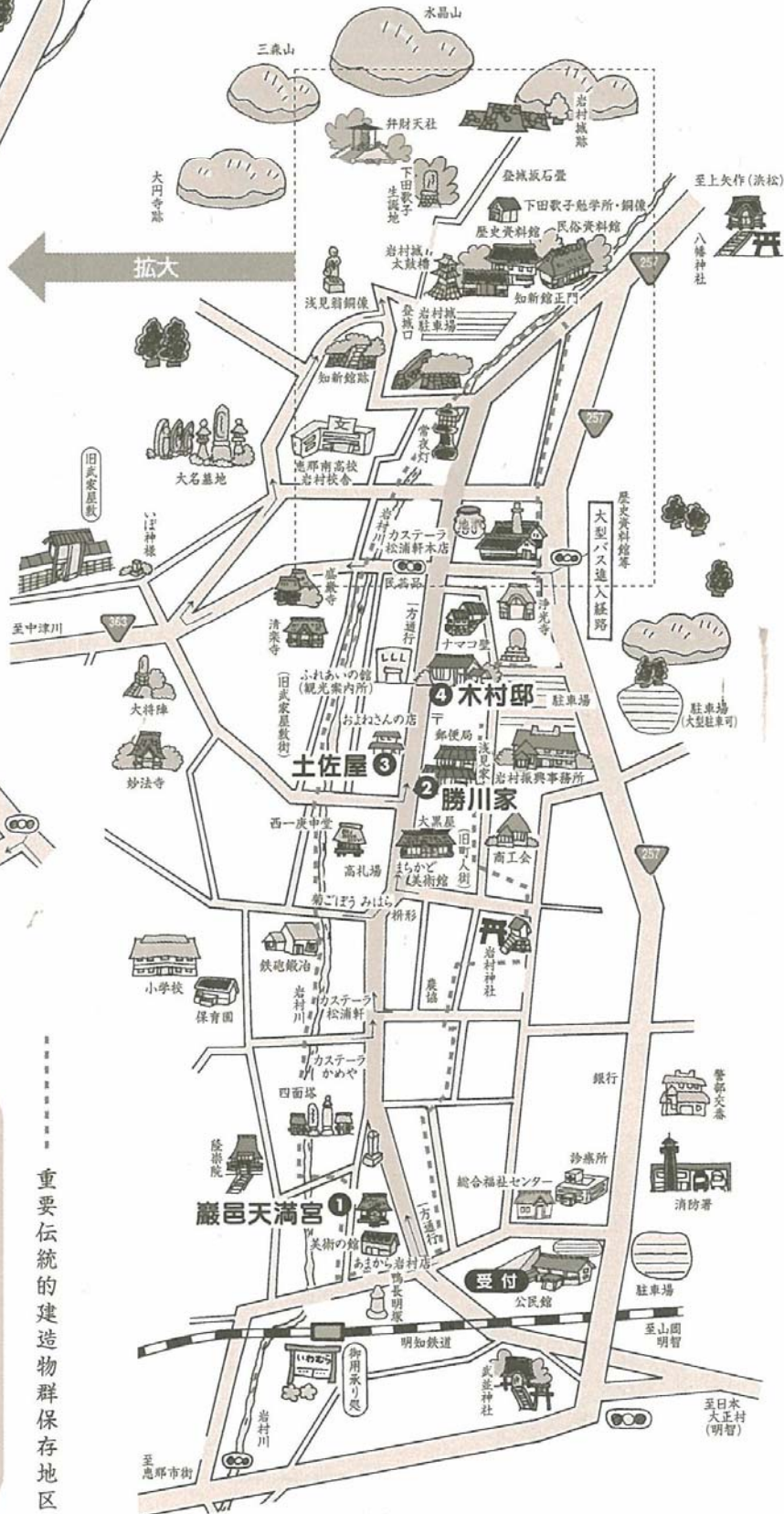


スタンプクイズラリー案内図



- | | |
|----------------|----------|
| ① 巖邑天満宮 | ⑩ 一の門 |
| ② 勝川家 | ⑪ 土岐門 |
| ③ 土佐屋 | ⑫ 霧ヶ井戸 |
| ④ 木村邸 | ⑬ 六段壁と菱櫓 |
| ⑤ 銅像山浅見与一右衛門銅像 | ⑭ 本丸 |
| ⑥ 知新館と佐藤一斎銅像 | |
| ⑦ 岩村城弁財天社 | |
| ⑧ 三好学銅像 | |
| ⑨ 下田歌子勉学所 | |

重要伝統的建造物群保存地区

チェックポイント

岩村城跡と歴史的まちなみスタンプクイズラリーウォーキング

出発

案内板配置

ゴール

制限時間
11:30まで

歩

恵那市岩村公民館

岩村城跡本丸

① 巖邑天満宮

文政5年(1822)、木村家当主木村知英(6代目弥五八)が太宰府天満宮を参拝した折に、この地に勧請した。明治8年に天正山に遷されたが、同22年に再び現在地に遷された。毎年2月・6月に例大祭を行っている。

クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



② 勝川家

屋号は松屋。江戸末期に材木・米穀商として栄え、藩の御用達磨も務めた。主屋は江戸後期の建築。奥の四戸前土蔵は岩村城の建物の払い下げを受けたもの。恵那市指定文化財。往時の姿を整備し、平成16年から「江戸城下町の館」として公開している。



③ 土佐屋

江戸時代から続く紺屋(藍染め屋)の建物を復元し、「工芸の館・土佐屋」として公開している。一番奥の作業場に並べられた藍の染め壺と火壺は、寒冷地である岩村で染め物をするための独特の工夫がされており、一見の価値がある。



④ 木村邸

寛永15年(1638)丹羽氏信の入封に随行してきたと伝えられる旧家に、当時岩村藩の財政を支えた。母屋の奥に続く茶室は佐藤一斎により「藍原舎」、書院は八橋亮茶翁により「老梅書院」と命名され、自筆の書額が掲げられている。

クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



⑤ 銅像山 浅見与一右衛門銅像

岩村の大庄屋浅見家の9代目当主。衆議院議員など要職を歴任する。かたわら、明治維新で衰退した岩村城下町を復興するため尽力した。明治39年(1906)には、私財を投げ打ち、岩村〜大井間に全国で13番目の電気鉄道を開通させた。



⑥ 知新館と佐藤一斎銅像

知新館は、元禄15年(1701)に藩主松平乗紀が創設。全国的に見ても15番以内に入る歴史ある藩校である。佐藤一斎は日本を代表する儒学者。門下からは、佐久間象山など幕末に活躍した人材を輩出した。番書「言志録」は現在でも愛読者が多い。近くには下田歌子顕彰碑もある。

クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



⑦ 岩村城弁財天社

文化14年(1817)岩村藩飛領の駿河国広野村(現静岡市)に隕石が落下、藩主の命で弁財天社に祀った。まちづくり発足15周年記念事業で城址公園に遷宮をした。近くには下田歌子顕彰碑もある。



⑭ 本丸

二重櫓2棟、多門櫓2棟があり、二カ所の門も厳重な櫓門だった。標高717mは近世山城では最も高い。見どころは周囲の石垣。複雑に折り重なる東面、野面積みが残る北面、高石垣を2段に積み上げた西面と様々な石垣を見ることができる。



⑬ 六段壁と菱櫓

城の中枢である本丸・二の丸の前の広場。「渡り櫓」と呼ばれる珍しい櫓があった。櫓の2階と二の丸門の間に廊下橋が架けられ、櫓の中に入って橋を渡り、門の前に出られるようになっていた。本丸は目の前にそびえる六段壁の上にある。

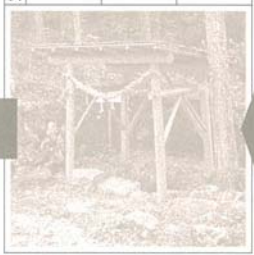
クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



⑫ 霧ヶ井戸

岩村城の別称「霧が城」の由来となった井戸。城が攻められたとき、秘蔵の蛇骨をこの井戸に沈めるとたちまち霧が立ち込め、城を包み隠したと伝えられている。藩の記録に宝物の「蛇骨」を虫干したとするものがあり、蛇骨は実在したようだ。

クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



⑪ 土岐門

「土岐殿門」とも呼ばれる。あるとき岩村城主と土岐氏との間で合戦があり、城主が戦勝記念として土岐氏の城の城門を持ってきたものと伝えられる。この門は、明治初年に飯羽間の徳祥寺に移築され、現在もその山門として現存している。



⑩ 一の門

城内への最初の関門。2階建の櫓門の両側は多聞櫓と土塀で厳重に固められていた。攻め手がここを突破しても、正面に高石垣が立ちはだかる。その先は土岐門、大手門が続ぎ、城内に入ることは容易ではなかった。



⑨ 下田歌子勉学所

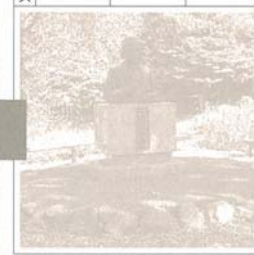
安政元年(1854)に岩村藩士平尾鏝蔵の長女として生まれた。石川県師範学校を卒業した後、18歳で瑞浪小学校校長、その後東京帝国大学で植物学を志した。桜と花ショウブの研究の第一人者として有名。また、天然記念物の保護のため尽力した。実践女子学園の創設者。



⑧ 三好学銅像

文久元年(1861)に岩村藩士三好友衛の二男として生まれた。石川県の師範学校を卒業した後、18歳で瑞浪小学校校長、その後東京帝国大学で植物学を志した。桜と花ショウブの研究の第一人者として有名。また、天然記念物の保護のため尽力した。

クイズ	1	2	3
-----	---	---	---



合言葉 岩村城跡 ↓